

ハイパーターミナルからのテキスト出力のキャプチャ

目次

[概要](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[表記法](#)

[適切なターミナル設定の使用](#)

[ルータ出力のキャプチャ](#)

[ブレイク信号の送信](#)

[ハイパーターミナルの Xmodem を使用した Cisco IOS ソフトウェア イメージの送信](#)

[関連情報](#)

概要

Microsoft のハイパーターミナルは、最も一般的に使用されているターミナル エミュレータ プログラムの 1 つです。このドキュメントでは、Cisco ルータでのハイパーターミナル機能の使用方法について説明しています。

前提条件

要件

このドキュメントに関する固有の要件はありません。

使用するコンポーネント

このドキュメントは、特定のソフトウェアやハードウェアのバージョンに限定されるものではありません。

このドキュメントの情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されたものです。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、クリアな (デフォルト) 設定で作業を開始しています。ネットワークが稼働中の場合は、コマンドが及ぼす潜在的な影響を十分に理解しておく必要があります。

表記法

ドキュメント表記の詳細は、『[シスコ テクニカル ティップスの表記法](#)』を参照してください。

適切なターミナル設定の使用

ハイパーターミナルで意味不明の文字が表示される場合、あるいはルータがキーストロークを受け付けなくなった場合は、ハイパーターミナルの設定に問題がある可能性があります。ルータは通常、デフォルトの設定を使用します。

ハイパーターミナルの設定方法については、『[コンソール接続用ターミナル エミュレータの正しい設定](#)』を参照してください。

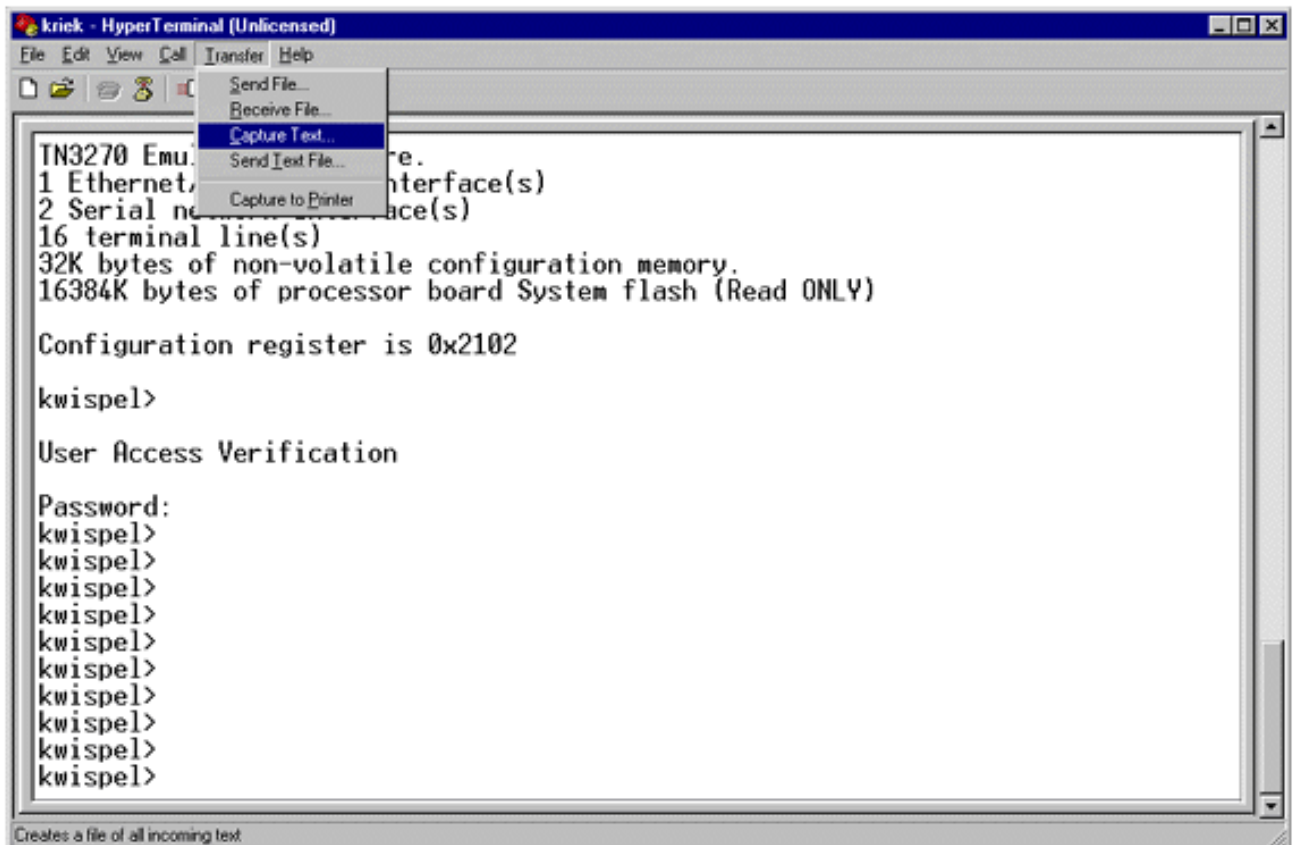
デフォルトの設定でうまくいかない場合は、ルータが標準外の設定を使用するように設定されている可能性があります。これを確認するには、有効なプロンプトが表示されるまで異なる速度での接続を試してみてください。

どの速度に変更してもうまくいかない場合は、使用しているルータがハングしている可能性があります。この問題を解決するには、『[ルータのハングに関するトラブルシューティング](#)』を参照してください。

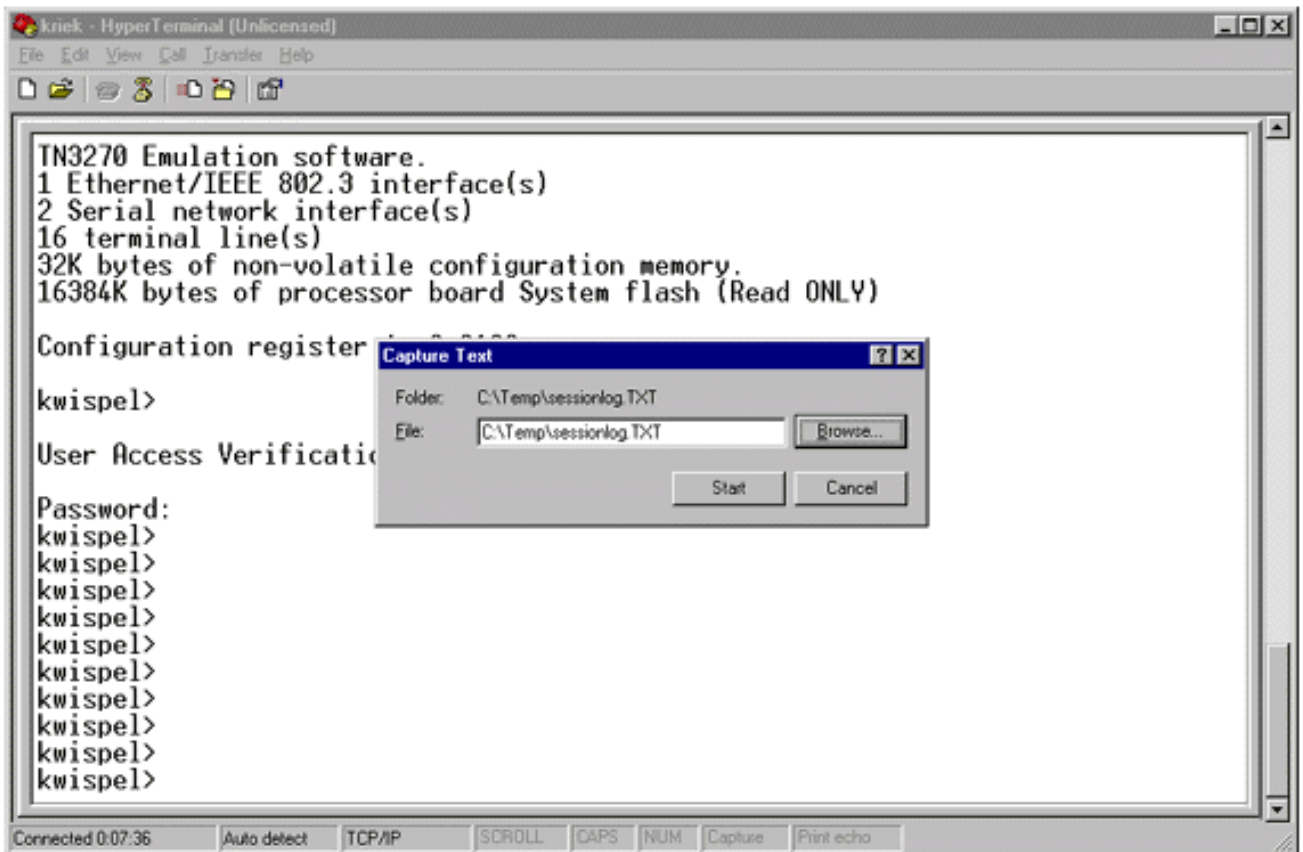
ルータ出力のキャプチャ

長い `show` コマンド (`show tech-support` コマンドなど) やルータ デバッグの出力をキャプチャするには、単純にコピー アンド ペーストするだけではうまくいきません。その代わりに、ここで説明するように、ハイパーターミナルから `Capture Text` オプションを使用します。

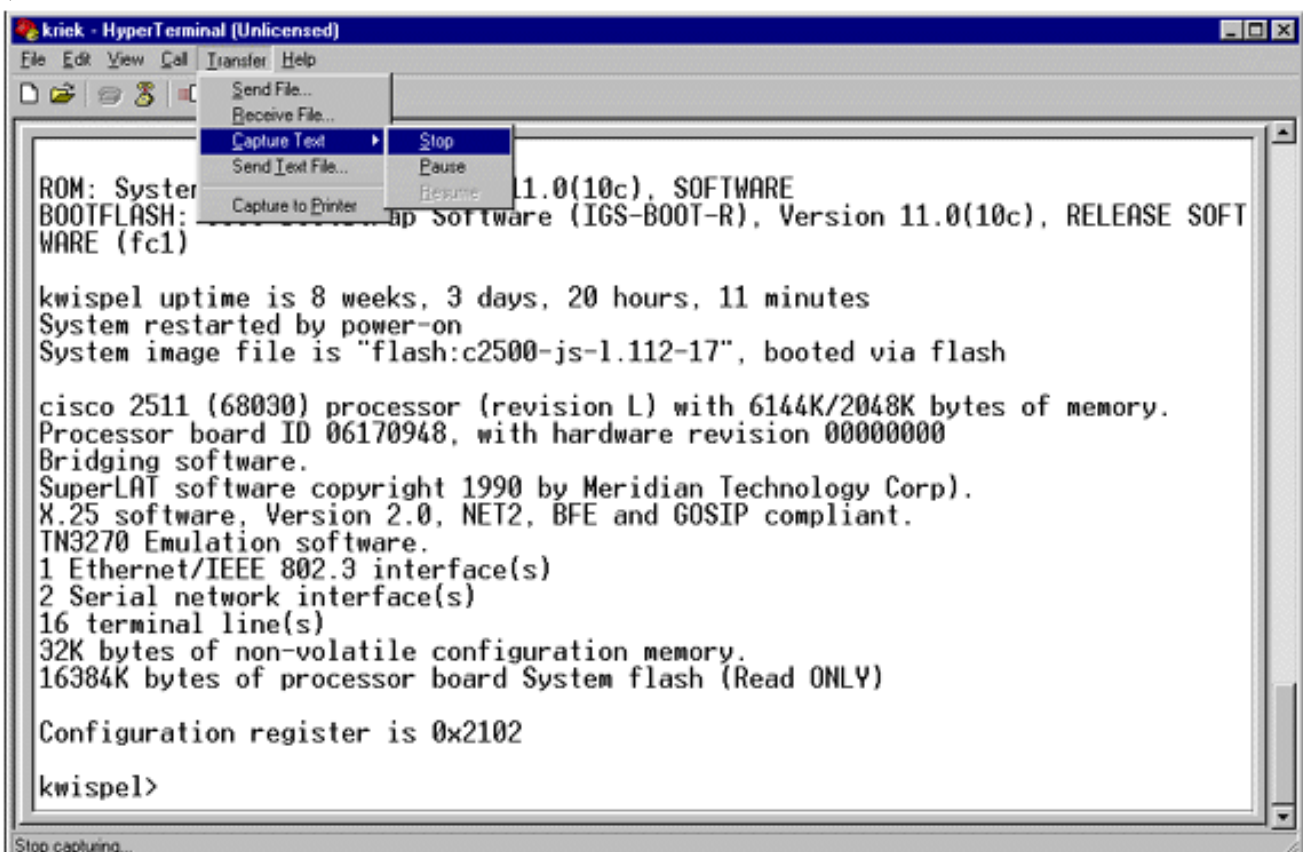
1. ハイパーターミナル プログラムのメニュー バーから `Transfer` を選択し、プルダウン メニューから `Capture Text` オプションを選択します。



2. 表示されたダイアログボックスで、エンジニアに送信するファイルの名前を入力します。`Start` をクリックします。



3. router# のプロンプトで `terminal length 0` コマンドを入力します。 [terminal length](#) コマンドを使用すると、1 画面ごとにスペースバーを押さなくても、コンソールのスクロールができます。注: [show tech-support](#) コマンドでは、デフォルトで「terminal length 0」がオンになっています。
4. エンジニアからの要請があったコマンド ([show interfaces](#) コマンドなど) を実行します。
5. コマンドの実行が終了したら、Capture Text サブメニューから **Stop** オプションを選択します。



6. 必要なテキスト キャプチャの数だけ、ステップ 1 ~ 5 を繰り返します。電子メールに新しく作成したファイルを添付して、シスコのサポート担当者へ送信します。注: 毎回、ターミナル長をゼロに設定する必要はありません。ターミナル長の設定は、別の値を手動で設定するまでゼロのままです。
7. router# のプロンプトで `terminal length 24` コマンドを入力します。こうすると、画面いっばいに文字が表示されるたびにコンソールが一時停止するため、出力を読むことができます。

[ブ레이크信号の送信](#)

パスワードの回復、またはルータのハングやブーティングの問題に関するトラブルシューティングを行うには、ルータにブ레이크信号を送信します。ハイパーターミナルでは、これは通常、CTRL-Break または CTRL-F6 のブ레이크シーケンスで実行されます。他のキーの組み合わせのリストは、『[パスワード回復中の標準的なブ레이크 キーシーケンスの組み合わせ](#)』を参照してください。

ルータがブ레이크 キーを受け付けない場合は、『[パスワード回復中の標準的なブ레이크 キーシーケンスの組み合わせ](#)』ドキュメントで、「[トラブルシューティングに関するヒント](#)」と「[ブ레이크 キーシーケンスのシミュレート方法](#)」のセクションに慎重に目を通してください。

[ハイパーターミナルの Xmodem を使用した Cisco IOS ソフトウェアイメージの送信](#)

どういうわけか（たとえば、起動障害）コンソールポートを通して Cisco IOS® ソフトウェアイメージをインストールする必要がある場合 XMODEM転送を使用できます。順を追った詳細な手順については、『[ROMmon を使った Xmodem コンソールダウンロード手順](#)』を参照してください。

[関連情報](#)

- [パスワードリカバリ中の標準的なブ레이크 キーシーケンスの組み合わせ](#)
- [コンソール接続のための正しい端末エミュレータ設定値の適用](#)
- [ROMmon を使った Xmodem コンソールダウンロード手順](#)
- [ソフトウェアコンフィギュレーションレジスタ](#)
- [パスワードリカバリ手順](#)
- [ルータハングに関するトラブルシューティング](#)
- [テクニカルサポートとドキュメント - Cisco Systems](#)